JAだよりおおがた
Ogata
1
JANUARY
2018 No.534

新春特集

①女性部・青年部・フレッシュミズ「新年に思うこと」 04
②役員視察研修報告 06

今月の表紙 南天（ナンテン）

中国で「南天燭」と呼ばれていたものが、平安時代に渡来した際に「南天」と省略して呼ばれるようになりました。
「難を転ずる→難転→なんてん」という語呂あわせから、厄災を退ける力があるといわれ、縁起かつぎに使われる木として愛されてきました。冬の寒いときにも可憐な赤い実をつけるので、正月飾りにも良く用いられています。

今月号の主な内容

02 年頭にあたって（組合長あいさつ）
08 女性部活動だより
09 営農だより（水稲の生育状況と作柄を振り返る）
12 あぐりプラザ情報・おぉがたな話題
13 インフォメーション・青年部活動報告と予定・職員人事
14 初めてのお誕生日・フォトニュース

みんなのよい食プロジェクト
食は日本の未来。JAグループ
JAグループ秋田キャッチフレーズ
いいねをいっぱい届けたい
JA大潟村

年頭にあたって

代表理事組合長　小　林　　肇

組合員の皆様とご家族、地域住民の皆様に対しまして、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃よりＪＡ事業につきましてご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

◆一年を振り返る

昨年は、４月に周期的な雨に悩まされましたが、５月は天候が回復し順調に田植えを終えることができました。しかし、６月に入ってから気温が上がらず生育が停滞し、この時期の低温の影響が大きかったため出穂が遅れました。７月には平年並みの気温に戻りましたが、局地的な大雨などが多発し、九州北部豪雨に続き、秋田県内では県南地域を中心に甚大な被害が発生しました。

出穂が遅れた影響と８月末の低温により、収穫時期が７日から10日ほど遅れてスタートし、青さの残る中での稲刈りでしたが、大潟村の収量は平年以上の作況「１０３」となり、秋田県では「99」、全国では「１００」という結果になりました。くず米の発生率は高まりましたが、全国的な品薄感から価格は高騰しました。全農からＪＡへの概算金についても、昨年より１，０００円高い１２，３００円からスタートし、その後１，０００円上積みされ１３，３００円となりました。大潟村の置き場価格はあきたこまちで１５，０００円を確保するなど、農家にはとても良い出来秋となりました。

ＪＡ事業におきましても、３回の総会を行うなど非常に慌ただしい年でしたが、いずれの議案も承認いただき誠にありがとうございました。責任を持って計画を遂行いたします。

◆コメ以外の状況

大豆につきましては播種期の天候不良により、初期生育の推移が緩慢でした。また、７月16日と22～23日にかけて記録的豪雨が発生したため、冠水や停滞水の影響により湿害傾向が目立ちました。その後は培土や追肥の効果もあり、草勢の回復もみられましたが、平年に比べ生育不足が顕著であり、茎疫病や黒根腐れ病といった湿害が要因となる病害の発生も確認されています。収量調査の結果では、生育期間を通して日照不足であったため平年を下回りました。品質については、子実の肥大が不十分で小粒傾向のほ場もありましたが、概ね平年並みとなりました。

小麦につきましては、越冬前の茎数が少なめに推移しましたが、雪解けが早かったため、春先の生育状況は平年並みに回復しました。６月の乳熟期にはアワヨトウが発生しましたが、早急に全ほ場を防除したため、大きな被害には至りませんでした。その後は、収穫時期の降雨により、倒伏したほ場も見受けられましたが、品質に大きな影響はなく収穫を迎えました。銀河のちからの栽培管理が安定してきたため、収量・品質ともに高いものとなりました。

かぼちゃにつきましては、育苗期の気温が例年よりも高かったため順調に生育していましたが、６月に入り低温が続いたため、その後の生育は遅れて推移しました。７月に入り気温は上がったものの、大雨の影響を受けたほ場もありました。出荷時期は昨年より１週間前後遅れましたが、後半は収量が増えて例年並みとなりました。

◆ＪＡの自己改革に向けて

政府与党は、「農協改革集中推進期間」を平成26年６月から平成31年５月までとし、自己改革の実践推進を求めています。また、平成28年４月に改正された農協法の附則については、「准組合員の利用規制について検討を加え結論を得る」など、「平成33年３月を目途に、改革の成果を

踏まえて、必要があれば制度の見直し検討を行う時期である」との見解を示しています。これらに伴い、JAグループでは准組合員も含めた全組合員へのアンケート調査を平成31年4月までに行い、組合員の評価を元に様々な事業に向けて改革を迫る方針です。

当JAでも、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」のために、米以外の高収益作物の導入に向けて力を入れるとともに、組合員の経営安定化と組合員戸数維持のため努力してまいります。また、資材を低価格で供給するため、常に価格の見直し交渉を行い、予約注文による組合員メリットを最大化させてまいります。さらに、低金利時代の中で定期貯金金利や総合口座金利の一体的な見直しを行うなど、財務基盤強化に向けた金融事業改革も推進してまいります。

◆米政策の見直し

今年の平成30年産米から、国による生産数量配分と、直接支払交付金（7，500円／10a）が廃止されます。個々の経営がより尊重される時代の中、米価下落の不安もあり、市場を見極めながらの営農がこれまで以上に重要となります。

昨年12月、JAでは「収入保険制度」、「農業生産工程管理（GAP）制度」、「米に関するマンスリーレポートの見方」の研修会を開催し、多くの組合員に参加いただきました。農家経営の安定化のため、最新の情報収集と情報分析に一層力を入れてまいります。

また、水田フル活用に対する政策支援は今後も続きますので、家族構成を考慮した農家所得向上のため努力してまいります。

◆タマネギ事業への取り組み

昨年12月の臨時総会において、タマネギ乾燥調製貯蔵施設の固定資産並びに関連農業機械の取得に関する議案を承認していただきました。

JAでは2年前から米以外の収益性ある作物の検討を重ね、その結果、タマネギが有望作物であると位置づけ、情報収集や視察研修を行ってまいりました。また、大潟村が控えている大規模灌漑施設改修工事について、国は今後の村内での作付け動向が重要であると認識しており、大潟村がコメ以外の作物導入に努力していることを、目に見える形で国に示すことが必要となっておりました。

今回はJAの想定より早く補助金の目処が立ったことにより、国の予算計画に間に合うよう早急に計画を立て、臨時総会に諮り、JAとしての意志決定をさせていただきましたが、この時期を好機ととらえ、タマネギの産地化に向けて不退転の決意で望みたいと思っております。

タマネギは機械化一体体系での栽培が可能な作物であり、収益性、市場性のある作物です。多くの組合員が参加しやすいよう、小規模機械をJAが導入してリースいたします。

大潟村は担い手と大規模規格農地があり、食糧基地としてのポテンシャルはまだまだあります。今後は、大潟村の水田の1割以上にタマネギ作付けが進むよう目標を立て、組合員の所得向上に努力してまいります。

タマネギ栽培の取り組みは始まったばかりですが、モデル農村の新たなチャレンジであり、JAにとっても、史上最大の産業振興策となります。

今後の大潟村の将来像を組合員の皆様と共に考え、共にチャレンジしてまいりたいと思いますので、これからもご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹んで新年のお慶びを申し上げます

代表理事組合長　小林　肇
専務理事　細川忠通
常務理事（学識経験役員）　高橋勇輝
理事　桑原秀夫
理事　深井源八郎
理事　大沼葉子
理事　中島達也
理事　橋本考由
代表監事　谷口良一
監事　松井　仁
常勤監事（員外監事）　菅原誠一
外職員一同

新春特集❶

「新年に思うこと」

ＪＡと深いつながりを持つ女性部長・青年部長・フレッシュミズ執行部代表より、昨年の反省や今年の展望など「新年に思うこと」を、それぞれ語っていただきました。

女性部

魅力ある女性部を目指して

部長　栢森　慶子さん

新年あけましておめでとうございます。日頃より女性部活動にご理解、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

29年度は、婦人会会長とＪＡ女性部部長を置き、執行部メンバーも変わり、新体制で始まりました。28年度までは、婦人会の長がＪＡ女性部の長を兼任していましたが、業務多忙なことにより、担当を分けることを、総会で了承していただきました。新体制になり、執行部はお互いにサポートしながらスムーズに運営しております。

29年度は、営農支援課のご協力を得ながら、

青年部

つながり

部長　竹本　健治さん

あけましておめでとうございます。

各関係各位の皆様におかれましては、日頃より青年部活動にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

青年部は現在41名で学習と交流の２つを中心に活動しております。

学習部では、ハウス巡回、生育調査、営農経営研修、農業政策等、主に稲作に関する技術、知識向上を目指し活動しております。

交流部では、村内他団体の活動の手伝いを通して交流を行っております。また、村外のＪＡ青年部などの農場等の視察を行い、学習・交流

フレッシュミズ

〝笑顔〟になれる場所

執行部　本庄ゆかりさん

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃よりフレッシュミズの活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、女性部の方々と役員が一緒に行った経緯度交会点と大潟富士周辺のサルビア植え、時間帯を夜に変えて今までと違った雰囲気の中行った会員交流会、秋田朝日放送への移動研修&秋田ビューホテル～ＳＯＲＡ～での昼食会、ゆっくりまったりしながらのさなぶりやお茶会、ＪＡ役職員との意見交換ができた座談会&本格的なヨガを行った教養講座、活気あふれる女性部との合同バレーボール大会、小玉醸造見学とパルテールでの昼食会を行った女性部との

野菜栽培講習会を3回行いました。

4回目となる1泊2日の移動研修では、山形県庄内町にあるクラッセの施設見学、JA庄内みどり遊佐支所との交流、そして、ちょっぴりの観光と土産物を両手に見聞を広め、日頃の疲れを癒したり、楽しく過ごしたりしました。

野菜栽培活動グループは立ち上げて3年になりました。第8回日本ジオパーク全国大会2017男鹿半島・大潟大会のエクスカーションの一つ「新たな大地が育んだ自然と恵み！」の中の農業体験を同グループが受け入れ、ツアー客19名と一緒にニンニクとたまねぎを定植し、女性部としても大きな活躍の場をいただきました。

また、エコレク部、エルダーの会、ゆずり葉、エプロンの会それぞれ頑張って活動を行っております。

女性部研修では、遺伝子組み換え食品、食べてはいけない物の講演を、フレッシュミズ部員と研修することができました。私たちは家族の健康を願う者として、アンテナを張り、取捨選択しながら情報を得なければいけないと思いました。

これからも女性部では、「入ってよかった、楽しい、勉強になる」活動をしていきたいと思っています。

今年も部員増を目指しているので、いつでも新入部員大歓迎です。また今年は、婦人会50周年、女性部45周年の大きな節目の記念イベントがあり、実行委員会が動き始めました。このことについて、皆様方からご提案をいただければ幸いに思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

を兼ねた活動も行っております。

青年部圃場において、昨年度から米以外の農産物の栽培技術習得に向け、かぼちゃ、たまねぎの栽培を行っております。28年度はかぼちゃを4反歩栽培し、10月にたまねぎを1反歩定植しました。計画通りには、なかなか栽培できず、収量や品質も思っていた通りにはなりませんでした。29年度はその失敗を糧に、青年部員と奥様方の協力のおかげでかぼちゃ、たまねぎ共にいい収穫になりました。来年度も青年部員で団結し、青年部圃場を有効活用していきたいです。いずれは、個々の農家の経営向上に繋げていければと思っております。

2月には大潟村で、新あきた、湖東、秋田みなみ、しんせいの各JA青年部を招いての交流会を予定しております。交流の中で新たな知識やつながりができると思うので楽しみにしております。新たな技術や知識を習得するために様々な活動を行っていきたいです。

こんな青年部活動に参加してみませんか？最初はお試しで構いません。興味のある方は、JA営農支援課または、お近くの青年部員までご連絡ください。

本年も、皆様の深いご理解とご協力、変わらぬご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

役員合同研修、大麦の恵みを使用した料理講習会など、様々な活動を楽しむことができました。

しかし残念ながらフレッシュミズは新規加入部員が少なくなると共に、年々部員数が減っています。昨年度、「若妻部」から「フレッシュミズ」と名称を改め、未婚・既婚を問わずより多くの女性が参加できるようになりましたが、部に所属する、役員になると大変だと感じ、一歩引いてしまう方もいると思います。正直、加入する前の私もそのような思いはゼロではありませんでしたが、部員の方からお誘いを受けて思い切って参加してみると、同世代の女性が住区や子どもの繋がりを超えて交流できるフレッシュミズならではの楽しさを感じました。仲間との語らいで心がリフレッシュし、いつもと違う体験で新しい気づきがあり、何よりたくさんの方々と知り合いになれたのが嬉しかったです。

昨年度は企画部、今年度は執行部として活動していますが、イベントの企画や運営など役員と協力して行うことで絆が深まったり、村の会議に出席することで自分たちの住む村への関心を持つきっかけとなったり、様々な研修に参加することで視野も広くなったり、自分を高められる良い機会だと感じています。

人数が減ってもフレッシュミズのパワーは衰えていません。女性として、妻として、母として過ごす毎日に、新鮮さと時には刺激を与えてくれるフレッシュミズの活動には笑い声と〝笑顔〟が溢れています。強制ではなく、自分のペースで参加できますし、まずはお試し会員として楽しい雰囲気を味わってみることもできます。一緒に笑い合える仲間を増やしませんか？

今年もフレッシュミズを盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

特集❷

平成29年度 役員視察研修報告

平成29年度の役員視察研修を11月14日～16日の日程で行い、
役員11名、職員２名が視察しました。同行職員のレポートでご報告いたします。

11月14日 作付け開始から10年間で面積約15倍、生産量約46倍まで普及拡大したたまねぎ産地を視察

- 富山県農林水産総合技術センター　園芸研究所（富山県砺波市）
- ＪＡとなみ野　たまねぎ集出荷貯蔵施設（富山県砺波市）

ＪＡとなみ野管内のたまねぎ圃場

富山県砺波市・たまねぎ産地の概要

たまねぎの普及生産は平成20年秋から始まり、「３年間で栽培面積100ha」という壮大な計画を元にＪＡとなみ野が主体となり、生産機械（畝立成型機、定植機、収穫期）を貸し出し、約10億円を投入して乾燥貯蔵施設、選別調製施設を整備し、乾燥、調製、選別をＪＡとなみ野で請け負ったのが始まりです。

１．たまねぎ生産の取り組みについて

【現　状】

砺波地域は、水稲を中心とした集落営農組織や大規模経営体が多い。近年の米価の下落等により所得が減少

【課　題】

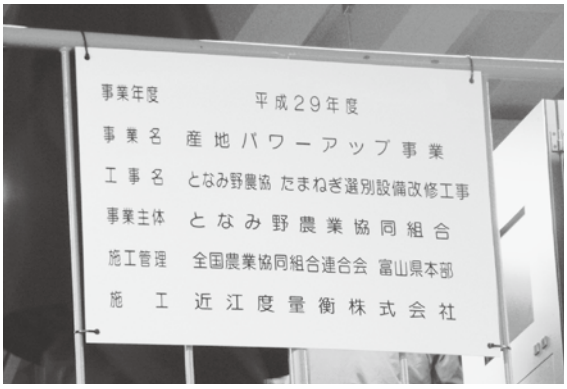
園芸作物等を導入した経営の複合化

【品目の選定理由】

①県内に産地が無い、②機械化作業が可能、③水稲作作業と時期が競合しない（古くから栽培が盛んなチューリップの作型と似ている）等

【作付面積と生産量・販売金額の推移】

H30年産は目標値



ＪＡとなみ野は、たまねぎの生産量増加により、既存の施設では調製が間に合わないため、平成29年度の国の補助事業で集出荷貯蔵施設を新設しました

年　産	H21年産	H22年産	H23年産	H24年産	H25年産	H26年産	H27年産	H28年産	H29年産	H30年産
作付面積	8ha	58ha	63ha	60ha	53ha	66ha	83ha	104ha	118ha	200ha
経営体数	24	104	118	98	92	98	105	112	107	134
生 産 量	119 t	571 t	930 t	1,667 t	1,760 t	2,700 t	2,777 t	5,519 t	5,460 t	10,000 t
販売金額	12,899千円	32,060千円	38,500千円	129,363千円	126,500千円	230,406千円	292,874千円	486,650千円	352,000千円	800,000千円

2．たまねぎ栽培の概要

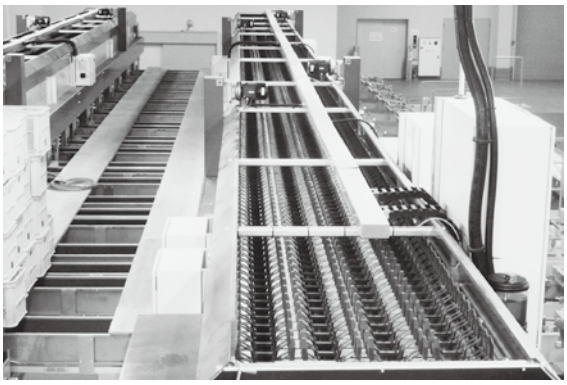
播　種　８月下旬～９月上旬
定　植　10月中旬～11月上旬
収　穫　６月中旬～７月上旬

3．産地化に向けた取り組み

北陸で初となる水田地帯での大規模栽培であり、生産の拡大、定着に向け次の課題に取り組んでいます。

①水田転換畑での機械化一貫体系に対応した技術確立
（額縁排水、弾丸暗渠の実施による排水対策の徹底等）
②積雪等の北陸の気象条件に対応した新たな技術確立
（高温時期の健苗や越冬率の向上等）
③安定生産のための各経営体の技術レベルの底上げ

ここで手選別（荒選別）し、キズ玉・腐敗玉を除去します


キャリスター（カメラセンサーによって形状、色、皮向け、腐りが選別され、重量測定装置で1ｇ単位で測定し、規格が決定される）という機械

11月15日

全国一の種子生産地を目指し、補助事業を使いながらラック式種子保管倉庫を新設したＪＡを視察

● ＪＡ富山市　種子センター（富山県富山市）

ＪＡ富山市・種子センターのラック式種子保管倉庫

農家へのアンケートで作付してみたい作物３品（ばれいしょ、にんじん、加工用キャベツ）を選び、各品目売上１億円を目指すところからスタートした全農を視察

● ＪＡ全農とやま　野菜センター（富山県富山市）

ＪＡ全農とやま・野菜センターのにんじん選別調製ライン

まとめ

今回の視察研修で様々な施設並びに設備を見学し、各々が持っている課題や、機械化により普及できた点を学んだことにより、園芸作物の選果場、貯蔵施設の規模の重要性、園芸作物の普及例など非常に勉強になりました。

現在、大潟村ではたまねぎの乾燥貯蔵施設の導入を進めており、円滑に事業を進めるうえで非常に参考になりました。

営農支援課・宮国　淳 記

第402号

女性部「活動だより」

☆これからの行事予定

◎「かご作りグループ」立ち上げました！

エコクラフト・ＰＰバンドを使用したかご作りを２月に３回（エコクラフト２日、ＰＰバンド１日）予定しています。お問い合わせ、参加希望の方は、ＪＡ生活課　平塚美子（45-2214）または、かご作りグループ　一箭薫（090-4040-1130）までご連絡ください。

締切は１月18日（木）です。参加者には後日詳細をお知らせします。

活動グループとは？

活動グループは、いつでも結成することができます。活動グループとして活動してみたい方は、執行部にお知らせ下さい。詳しいことは女性部総会資料に載せていますので、ご覧下さい。予算の配分や活動だよりへの掲載など、役員会で決定いたします。みなさんも活動グループを結成してみませんか？

これまで結成された活動グループ：○盆踊り仮装グループ○米を利用した伝統食を作る会○フリーマーケットグループ○野菜栽培活動グループ○男鹿のわかめ購入世話グループ

◎１月23日（火）　楽しく軽スポーツ（スマイルボーリング）
10時～　体育館　（２ポイント）

◎１月29日（月）　ＪＡ役職員との懇談会
９時30分～　（２ポイント）

◎１月29日（月）　女性部懇談会　13時30分～
（２ポイント）

◎２月９日（金）　コメ油を使った料理講習会
時間未定　村民センター　（２ポイント）

◎２月13日（火）　健康講座（認知症についてとひだまり苑リハビリの先生の体操）
13時30分～15時　健康館　（２ポイント）

◎２月16日（金）　３Ｂ体操
10時～　健康館　（２ポイント）

★活動報告と各種会議報告

◎生活モニター研修（11月17日）

秋田市外旭川にある㈱Ａコープ北東北に行きました。ＪＡふれあい食材の商品研修として、「藁焼きかつおたたき」の試食、「エーコープ三陸産生わかめ」と「磯のつくだ煮」は市販品との品質比べ、「ポークソーセージウインナー」は市販品との食べ比べをしました。

ふれあい食材は一年を通して使用しなくても良く、農繁期のみの利用でもＯＫです。内容も「基本コース」「シルバーコース」「まんぞくコース」「わくわくコース」「かんたんコース」があり、宅配料は無料です。毎月食材にあわせたレシピ本がついてきて、おかず作りのアイディアが載っています。毎回申し込み用紙をチェックしなくても色々な食材が自宅に届き、買い物に行く手間が省けるのがウレシイところですね。

「ＪＡふれあい食材」の相談・申し込みは、あぐりプラザのサービスカウンターでできます。　（佐藤睦美記）

◎第44回婦人会バレーボール大会（11月22日）

昨年と同じチーム数がエントリーしましたが、今年は不安定な天候で仕事がはかどらず気をもんでいたところ、大会当日はとても良い天気になり、残念ながら個人会員チームはオープン参加となってしまいました。

ケガ人も出ず無事に大会を終了することができましたが、毎年同じチームの参加にとどまっているので、もっと全員が参加できて、楽しく体を動かせることに変えることも考えなければと思いました。　（山口菜穂子記）

◎みそ・とうふの会（11月27日）

第１回目の加工センターの掃除が行われました。各住区の協力員さんと、ボイラーのお世話をしていただく金子さんのご指導の下に進められました。

豆腐作りに使用する道具、味噌加工に使用する袋類、タオル類などの煮沸消毒。第１発酵機、第２発酵機の掃除点検など、隅々まで丁寧に行いました。ピカピカになりましたよ。

きれいになった加工センターをぜひたくさんの人たちが利用していただければ幸いです。　（石山裕子記）

◎１日行政体験（11月30日）

役場住民保険課で行政体験をしました。戸籍事務、住民基本台帳、国民年金事務、村民総合健診、介護保険、高齢者医療など、幅広い業務がありました。

住民票、印鑑証明書などの金額は村で決められる事、戸籍謄本などは国で決められている金額であるとの事でした。また、健診の受診率は67％と県内では高いほうですが、村では70％以上を望んでいるとの事でした。これからも健診は率先して受診してほしいですね。役場業務の一部を知る事ができて貴重な一日でした。

（伊藤尚子記）

◎豆腐・油揚げ作り講習（12月４・５日）

初めてこの講習に参加しました。両日とも、何をどうすればよいか分からず、皆さんの作業を見ているだけでしたが、作業しながらの会話が楽しく、あっという間に豆腐や油揚げが出来上がり、出来たてホヤホヤをいただいて帰りました。その日のおかずは昼食が湯豆腐と油揚げの素焼き、夕食がおから入りのひじきの煮物となり、家族も出来たての味を喜んでくれました。

楽しくて、美味しいものがいただけるこの講習に、来年もぜひ参加したいと思います。　（一色田二美記）

豆腐作り講習会
（12月４日）
13人参加

油揚げ作り講習会
（12月５日）
14人参加

◎大豆加工と野菜の調理実習（12月11日）

この１年、みんなで協力して種をまき、水をやり、草をとり、土を寄せ、追肥をして、ニンニク、たまねぎ、ジャガイモ、人参、大根、スイカ、かぼちゃ、サツマイモ、かぶ等を育てました。作業も楽しく、新しい情報や知識も得ることができて、勉強になります。

今回は豆腐を作り、おからと野菜の料理を作りました。メニューはだまこ鍋、おからサラダ、卯の花、おからドーナツ、切り干し大根の煮付けです。おからサラダは豆乳を加えて、ポテトの代わりになるので、カロリーも低く、食物繊維も多くよりヘルシーになります。おからドーナツはコメ油で揚げてよりおいしく仕上がりました。

楽しい野菜栽培活動グループ、ご一緒しませんか？

（野菜栽培活動グループ・土田里美記）

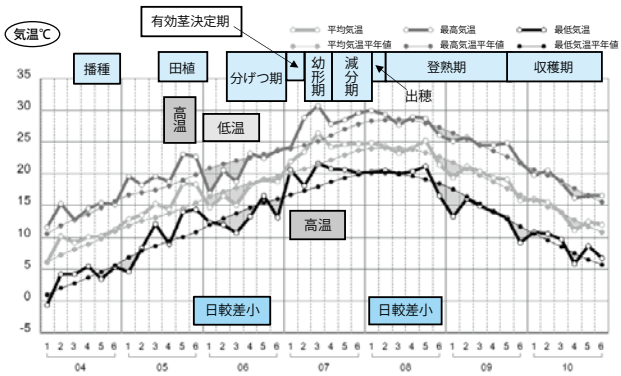
営農だより

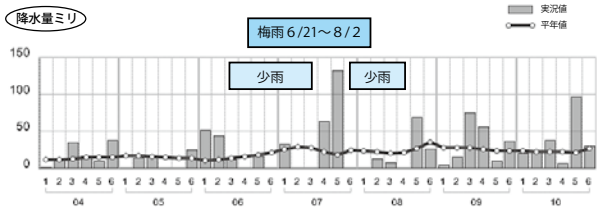
※このコーナーは隔月で掲載致します。園芸作物の栽培に取り組む生産者の紹介は今回お休みします。

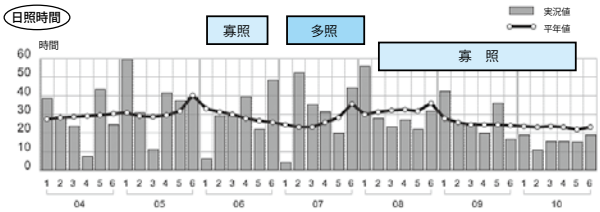
作況指数103、１等米比率98%
～平成29年度 水稲の生育状況と作柄を振り返る～

平成29年大潟村産米は、全体の平均単収647kg、作況指数103の「やや良」、１等米比率98%となりました。生育状況と作柄について、気象経過や坪刈などのデータをもとにまとめましたので、30年度の参考にしてください。

1 気象経過【秋田県農業気象システムデータ】







2 生育概況（あきたこまち）

（1）育苗期

本年は浸種期間から周期的に気温の変動が大きく、播種日等によっては発芽のバラつきが見られたが、５月に入ってから気温が上昇したことで、育苗の中盤から生育が急激に早まった。このため、ハウスを早めに開放する等、管理に苦慮した方が多く見受けられた。

また、ここ数年は育苗期間に立枯れ病などの病害は少なくなっているが、覆土へ焼土を使用する方が増えたため、発芽時の苗ヤケ等による発芽不良がやや目立つ傾向にある。播種時の灌水量や被覆中の温度管理などは外気温も考慮し管理にあたることが必要と思われる。

（2）田植え～生育初期

苗の生育が早まったことと、育苗終盤に気温が上昇したことで、田植え作業は５月15日頃から盛期を迎えた。数日の低温日があったものの、５月20日頃より再度気温が上昇し、植付け後の活着状態は良好であった。

ただ、６月に入り天候が一変して、気温と日照時間が急激に低下し、平年気温を下回る日が連続したため、６月７日（１回目）の生育調査では草丈が平年比91%、茎数同比75%と初期生育が著しく停滞した。このため、地温確保による発根を促すべく、好天日に浅水での管理に努めた。

（3）分げつ期

低温と寡照が６月末まで長引いたことから、６月19日（２回目）の調査でも茎数が平年比54%、SPAD値が81%、６月27日（３回目）の調査においても同比で茎数63%、SPAD値94%と生育停滞の状態が続き、特に茎数不足は近年では例を見ないほど際立った。

７月に入り気温と日照が急激に上向いたことで生育も回復してきたが、例年だと４回目の調査日（本年は７月７日）に当る最高分げつ期が、本年は７月18日（５回目）の調査日となり、平年からは約10日の遅れとなった。このため、平年では茎数が減少している時期と最高分げつ期が重なり、この時（５回目）の調査で茎数は436本/㎡で同比95%、SPAD値は43.4で同比105%とほぼ平年並みとなり、生育速度は遅れているものの生育量は回復傾向となった。

図１ 田植えから５日間の移動平均気温の推移

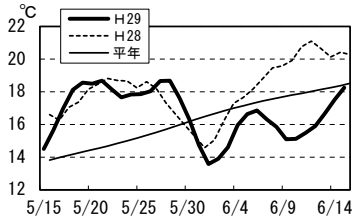


図２ 草丈・稈長（あきたこまち平均）

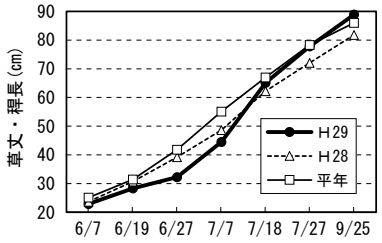
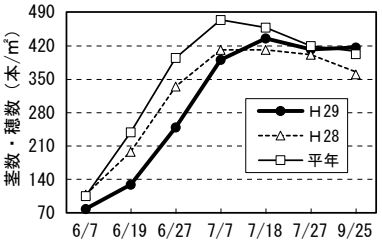


図３ 茎数・穂数（あきたこまち平均）



（4）幼穂形成期～出穂期

７月前半の気温が平年を大きく上回ったことで、７月７日（４回目）の調査では草丈が44.5㎝（平年55.1㎝）で10㎝程度短かったが、７月18日（５回目）の調査では65.1㎝（平年67㎝）と急激に伸長した。また、葉数も同様に４回目の調査では9.6葉（平年10.4葉）、５回目が11.2葉（平年11.6葉）と展葉の速度も早まった。なお、村内平均の幼穂形成期は５回目の生育調査から７月17日頃と予想され、２日程度の遅れであった。

本年は６月の低温により、地力窒素の多くは７月以降に吸収されたと予想される。茎数の推移では、最高分げつ以降も茎数の減少が少ないが、地力窒素の溶出により、幼穂形成期以降も葉色が高めに推移し、本来、中干し等で抑制される弱勢茎の発生割合が高くなったためと考えられる。

本年の出穂期は、あきたこまちが３日程度遅い８月７日であったが、出穂がバラつき、穂揃いには２週間程度も要した。晩生品種に至っては出穂期が８月16日（７日程度の遅れ）であったが、９月にようやく穂揃いした圃場も多く見られた。これについては後半に発生した弱勢茎の葉色が濃く、それらの幼穂形成が遅れたことが要因と思われる。

図４ 葉数（あきたこまち平均）

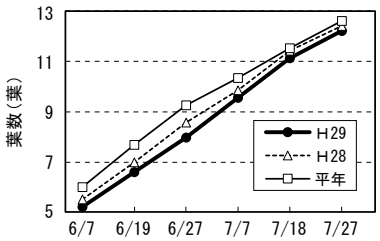
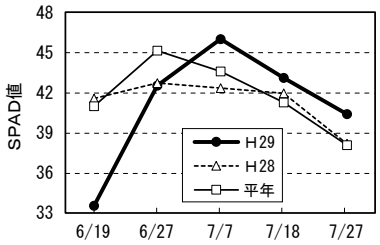


図５ SPAD値（あきたこまち平均）



（5）登熟期

出穂直後より低温・寡照傾向が強まったため、登熟の経過は緩慢となったが、８月後半と９月に数回まとまった降雨があったことで、根域が登熟後半まで保たれたと予想される。このため、出穂以降の穂数がどの品種でもほぼ減少が見られず、逆に微増した品種もあった。

登熟後半の９月18日に台風18号が通過し、「あきたこまち」等の早生品種への影響は少なかったものの、出穂の遅れた晩生品種では登熟に影響があったものと思われる。

あきたこまちの成熟期調査では稈長86.9㎝（平年86.0㎝）、穂長18.7㎝（同18.0㎝）、穂数417本/㎡（同409本）と「草丈平年並み、穂数やや多め」であった。

3 病害虫発生状況

(1) いもち病	葉いもち病の発生は少なかったものの、８月が寡照傾向であったため出穂後の穂いもちの発生が目立った。
(2) 稲こうじ病	早生品種の発生は少なかったが、晩生品種で発生が目立った。特に「ときめきもち」については、多くの圃場で発生が見受けられた。
(3) 紋　枯　病	例年発生の多い８月に冷涼な日が多く、全体的に発生は少なかった。
(4) 斑点米カメムシ類	本年は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」「アカスジカスミカメ」ともに発生量が多かったものの、８月中旬以降に低温・多雨傾向となり活動が鈍ったことから、全体的な被害には至らなかった。

4 作柄状況（収量・品質）

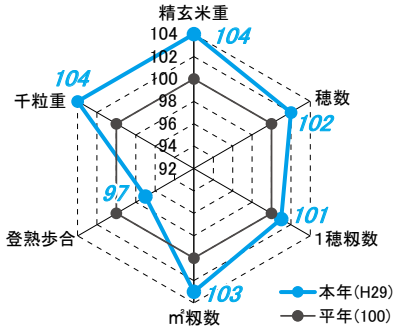
「あきたこまち」収量構成要素では穂数が417本/㎡（平年比102％）で、１穂籾数も（同比101％）やや多く、㎡当籾数が約35.4千粒と平年（同比103％）を上回ったものの、登熟歩合は85.6％（同比97％）と低くなった。千粒重（篩い目：1.85㎜）は22.2gとやや上回った。

定点調査区の坪刈収量は「あきたこまち」で605kg/10a（平年比104％）の「やや良」であり、収量構成要素の結果から、「登熟歩合は低かったものの、籾数と千粒重が上回った」ことが要因であると考えられる。

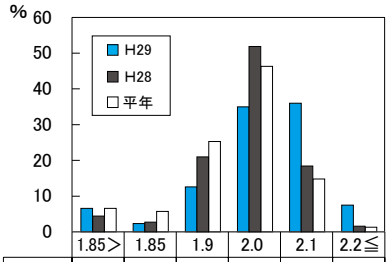
表－１　定点調査区13ヶ所収量調査結果

あきたこまち（生育調査13地点平均）	精玄米重（kg/10a）	穂数（本/㎡）	１穂籾数（粒/穂）	㎡籾数（千粒/㎡）	登熟歩合（％）	千粒重（g）
	605	417	85.0	35.4	85.6	22.2
平年比％（S58～H28）	104	102	101	103	97	104
前年比％	100	107	105	112	91	102

H29年 収量構成要素（あきたこまち平均）



H29年 粒厚分布（あきたこまち）



	1.85＞	1.85	1.9	2.0	2.1	2.2≦
H29	6.6	2.3	12.6	35.0	36.0	7.5
H28	4.4	2.7	21.0	51.9	18.4	1.6
平年	6.6	5.7	25.3	46.3	14.8	1.3

平成29年度 水稲の生育状況と作柄を振り返る

5 大潟村予想収穫量（主要品種の作柄調査結果）

作況については、農林水産統計とは別に営農支援課で地区別・品種別に約60点を調査した結果。

全体の平均単収が647kg、作況指数は103の「やや良」となった。
［昨年は大潟村：659kg、作況指数108］
品種別では、あきたこまち：602kg
たつこもち　：709kg
きぬのはだ　：662kg

品質については、早生品種の整粒割合は平年並みであったが、晩生品種は未熟粒の割合が高く、整粒割合は平年を下回った。着色等の被害粒は全体的に少なかった。

当ＪＡ検査実績での「あきたこまち」の等級比率は11月現在で、１等米比率が約98％となっている。

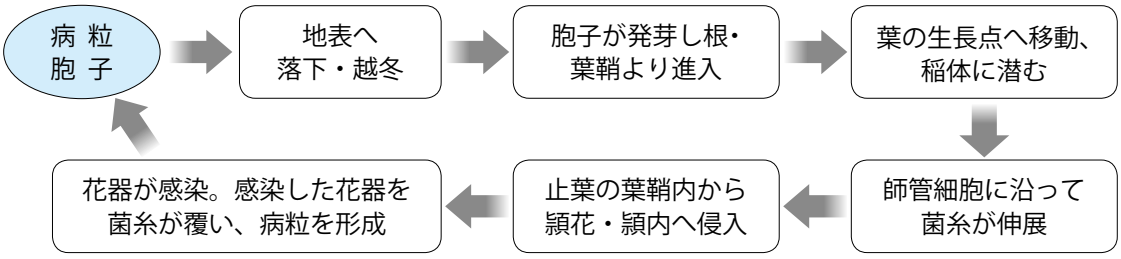
※平年単収は過去５年間の最高と最低を除く平均値　６３０kg

平成２４年	６３７ kg
平成２５年	６１４ kg
平成２６年	５８４ kg
平成２７年	６３８ kg
平成２８年	６５９ kg

―参　考―

１）稲こうじ病の発生生態

出穂～収穫までの期間で稲の籾に黒緑色の病粒が形成され、収穫時に籾に付着していた病粒が土壌表面に落下し、病粒中に含まれる胞子が伝染源となる。翌年の田植え後、胞子が発芽して稲の根や葉鞘から菌糸が侵入すると考えられている。侵入した菌糸は葉の生長点に移動し、稲の成長とともに師管細胞に沿って伸展しながら、止葉の葉鞘内から穎花及び穎内へ侵入する。穎内へ侵入後、感染した花器全体を菌糸が覆って病粒を形成する。



２）稲こうじ病の多発生要因

気象条件により発生量が左右し、一般に低温、日照不足、多雨条件下で発生が多くなる。感染時期は出穂の１ヶ月前～１週間の期間であり、生育の最適温度は25℃～28℃で、穂ばらみ期～出穂期の低温、寡照、多雨条件は発生を助長する。また、前年の発生が多いと翌年の発生量も高まる傾向にあるため、注意が必要である。

３）防除対策

耕種的防除としては多肥栽培を避けるなどの方法はあるものの、薬剤防除が中心となる。また、ほぼ穂ばらみ期前に感染することから、薬剤防除時期も出穂前が基本となる。

【主な防除薬剤】

薬　剤　名	使用時期・散布適期	薬　　効
Ｚボルドー粉剤DL	出穂10日前まで 出穂20日前～10日前頃	散布後に銅イオン化し、銅イオンが病原菌に取り込まれ、病原菌の活性を抑制する。
モンガリット粒剤	収穫45日前まで 出穂21日前～14日前頃	根から稲体に吸収され、病原菌の細胞膜を阻害する。
アミスターエイト	収穫14日前まで	病原菌の呼吸を阻害する。
ブラシン粉剤DL・フロアブル	収穫７日前まで	菌糸及び胞子形成を阻害する。

４）品種間での耐病性

本年、晩生品種の「ときめきもち」に稲こうじ病の発生が多く見られたが、品種間での稲こうじ病の耐病性は、詳しく調査されていないため明らかではない。「ときめきもち」は籾と籾との隙間が比較的狭いことや、傾穂後に穂が葉の中に隠れる草姿などの特性から、本年の天候により穂が過湿状態になり易かったことが起因しているのではないかと考えられる。

あぐりプラザ トクトク情報

★フライデーセール（金曜日特売）

1月12日㈮・26日㈮

★ポイント３倍デー

1月15日㈪・25日㈭

★1月の特売　**1月18日㈭・19日㈮**

★中学校制服・体育着の展示会及び採寸をＪＡ会館２Ｆ和室で行います

1月19日(金)ＰＭ３：30～ＰＭ５：30
1月20日(土)ＡＭ10：00～ＰＭ12：00

☆村民バレーボール大会の１月21日(日)は休まず営業致します！

あぐりプラザおおがたの配達サービスをご存じでしたか？

当店でお買物していただいた商品や、電話等で注文していただいたビール・飲料などを、無料でご自宅までお届けするサービス（定期配達）を行っております。車での来店が出来ない方、外出が難しい方はぜひご利用下さい。

※配達時に配達員が、直接商品の代金を受け取ることはできません。お支払方法については、注文の際にあらかじめお知らせください。

配達日　月曜日から土曜日

配達時間　午後３時から午後４時半頃まで

営業時間

Ｈ29年11/1～Ｈ30年2/28の冬期間は、午前9時00分～午後6時30分

※日曜日は定休日ですが、村民バレーボール大会の１月21日(日)は休まず営業致します。

お問い合わせは生活課(45－2214)まで。

おおがたな話題

第13回　米とおにぎりの値上げは喜ぶべきか

新年おめでとうございます。冬の秋田は寒さ吹き飛ばす祭りの季節。刈和野の大綱引き。上町勝てば米価上がり、下町勝てば豊作になるという願望付きの力強い祭りだ。だが、昨今の現実の米価上昇は喜ぶべきか。「めでたさも中ぐらい」なのではないか。

なぜなら、それがこれまで果物・肉類・野菜などの国産農産物が輸入物に取って代わられてきたプロセスとよく似ているように見えるからだ。どれもこれも、まず国産品が品薄になって価格が上がるから、国民の消費ニーズに応えるには輸入品を増やさざるを得ないというパターンを踏んできた。

米はどうか。農水省の11月までの相対価格調査結果では全銘柄平均で60㌔税別１万5494円と前年比8.3%高だ。ここ数年来の生産調整の「深掘り」強化と飼料用米などへの強力な誘導による“主食用米の削り込み”が奏功した形だ。加えて作況100だったはずの2017年産米の実入りが思ったより少なく、とくに外食向け業務用低価格米の不足が目立つ。

これまでの米価上昇時、外食業者は、価格据え置き・量目減で対応してきた。が、2017年産は様相が一変した。コンビニおにぎりから牛丼、パックご飯まで値上げは目白押しで、消費者のニーズに応える形で「安い輸入米」に切り替えていく理由はできた。実際、昨年度まで低調の主食用輸入ＳＢＳ米の入札は予定数量の2.2～2.6倍で、限度量の10万㌧などすぐにもはち切れそうだ。

生産者が低価格帯米を避けざるを得ないのは主食用米が大規模層も含めて恒常的な採算割れを起こしているからだ。それを放置しておいては、コメの世界はさらに不安定化し、他作物が辿った輸入依存への道を辿る。基本計画目標の「強い農業」と「美しく活力ある農村」の実現など絵空事になる。主食用米の採算割れ防止の生産費対策は国の不可欠な責務だと思うが、いかがだろうか。

〈つづく〉

秋田県立大学名誉教授
佐藤　了

（さとう　さとる）
1949年秋田県生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程単位取得。農林省農事試験場、農林水産省農業研究センター、東北農業試験場で試験研究に従事。1997年に秋田県立農業短期大学教授に就任。秋田県立大学生物資源科学部教授、学部長を経て、2014年３月定年退職。専門は農業経済と地域計画。

※健康百科はお休みします。

農業経営基盤強化準備金の申請について（お知らせ）

準備金制度とは認定農業者の方が受けられる税制優遇措置で当該年の交付金を農機や農地を購入するために、交付金を積み立て、この積立金を、必要経費に算入できること、また、目的の固定資産の取得時には、固定資産の圧縮記帳を行うことができる制度です。

申請に当たっては、東北農政局秋田県拠点にてお手続きください。

なお、訪問の際には事前に予約が必要となりますので、ご注意ください。

◆連絡先

東北農政局秋田県拠点　経営安定所得対策チーム
〒010-0951 秋田市山王７-１-５　TEL 018-862-5612

給油所・あぐりプラザ・ＡＴＭの終業時刻の変更について

誠に勝手ではございますが、１月12日（金）は業務終了後に従業員研修会を行うため、給油所とあぐりプラザ、およびＡＴＭは下記のとおり終業時刻を変更させていただきます。

組合員はじめ、利用者の皆様にはご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

事　業　所	終業時刻
給　油　所	午後５時
あぐりプラザ	
Ａ　Ｔ　Ｍ	

青年部 活動報告と予定

随時部員を募集していますので、興味のある方はぜひＪＡ大潟村営農支援課（TEL：45-3033）までご連絡ください！

●活動報告　12月11日　忘年会（秋田市大町）
麻雀大会（秋田市泉）

●活動予定　１月の活動予定はありません。

年金個別相談会のご案内

ＪＡでは、年金についての無料個別相談会を開催いたします。年金専門の社会保険労務士が年金に関する質問にお答えいたしますので、お気軽にご来場の上、ご相談ください。なお、待ち時間軽減のため、事前の申し込みをお願いいたします。

日時：２月８日（木）午前９時～午後３時
場所：ＪＡ会館２階小会議室
対象：年金の受け取りを目前に控えている方や現在年金を受け取っていて、疑問をお持ちの方
持物：認印・年金手帳・基礎年金番号通知書・年金証書・年金定期便　など

お申し込み・お問い合わせは
金融課（45-3018または2211）まで。

五城目警察署からのおしらせ

新年に　家族で誓おう　交通安全

～交通安全は家庭から～

新年　あけましておめでとうございます。

交通事故のない安全・安心な社会の実現は県民すべての願いです。一人一人が「交通事故に遭わない、交通事故を起こさない」という意識を強く持ちましょう。

「一年の計は元旦にあり」です。ご家庭をはじめ、地域、学校、職場で交通安全を誓い合いましょう。

五城目警察署　TEL 018−852−4100

職　員　人　事

退　職　12月31日付

組合員の皆様、ありがとうございました。

佐々木　　進（整備課農機・農機整備係）
吉　田　美　幸（共済課・共済係係長）
一　関　由佳子（生活課・店舗係係長）
佐々木　夕　子（金融課・貯金係）

長い間お疲れ様でした。

「産地パワーアップ」で固定資産取得 ＪＡ大潟村臨時総会

ＪＡは12月13日、ＪＡ会館大会議室で臨時総会を行いました。

議案は、国の補助事業である「産地パワーアップ事業」を活用した、たまねぎの乾燥・調製・貯蔵施設並びに関連農業機械の取得についての１議案で、審議の結果可決となりました。

平成30年から、国による生産調整への関与と、経営所得安定対策の10ａ当たり７５００円の交付が廃止されます。稲作を中心とした大潟村農業において、農業所得増大のため今後どのような農業経営に取り組むかが最重要課題となります。

ＪＡでは、稲作プラス高収益作物への取り組みとして、コメ以上に収益性・市場性があり、機械化一体体系による作業が可能な「たまねぎ」の産地形成のため、責任を持って取り組んでまいります。

臨時総会の詳しい内容は、ＪＡだより２月号に掲載予定です

※「ＪＡの概況」は休みます。「理事会報告」は２月号に掲載します。

No.226

初めての お誕生日おめでとう!!

池田　伊織（いおり）ちゃん

最近おばあちゃんに似ていると言われる伊織君。
絵本を見るのが大好きで、一所懸命ページをめくる姿がとてもかわいいです。
これからもそのすてきな笑顔でまわりを元気にしてね！

このコーナーに掲載希望の方はご連絡お待ちしております。　TEL 45－2211　広報担当

フォトニュース PhotoNews

収入保険・GAP・輸出等

大潟村コメ流通戦略セミナー

JAは12月1日、昨今の農業情勢や米の販売・需要動向などを多角的に把握することを目的とした、「大潟村コメ流通戦略セミナー」をJA会館で開催し、組合員など80人が参加しました。

セミナー前半では農林水産省から、①経営局保険課保険数理室の窪山富士男室長が来年度から始まる収入保険制度について、②生産局農業環境対策課GAP推進グループ長の栗原眞農業環境分析官が近年話題になっているGAP認証について、③政策統括官付農産企画課米穀需給班の石田浩也米穀需給分析係長が「米に関するマンスリーレポート」の活用方法についての講演をそれぞれ行いました。

セミナー後半では、④福岡農産㈱の中島良一社長が全国と大潟村を比較した加工用米等の取組状況について、⑤㈱ワッカジャパンの佐藤陽介ゼネラルマネージャーが米の輸出についての講演をそれぞれ行いました。

セミナー終了後に開催した、都市圏消費地の米卸売業者を招いての商談会には組合員など30人が参加し、積極的な意見を交えました。

農林水産省生産局農業環境対策課GAP推進グループ長の栗原眞農業環境分析官「農業生産工程管理【GAP】について」

農林水産省経営局保険課保険数理室の窪山富士男室長「収入保険制度について」

㈱ワッカジャパンの佐藤陽介ゼネラルマネージャー「海外事業紹介について」

福岡農産㈱の中島良一社長「大潟村コメ流通戦略への示唆」

農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班の石田浩也米穀需給分析係長「米に関するマンスリーレポートの活用方法」